

1. 過去の被災地と連携した講演活動

(1) 被災文化財対応の人材育成事業

①能登連携館における研修(9月,12月)②学生ボランティアへの講義(7月~12月)

地域の一般の方、学生ボランティア、文化財保護関係者を対象とし、文化財に親しみ、その保護の重要性に関する理解を深めることを目的とし、文化財保護のDX化の現状等について、連携館と協力して被災文化財救援フォーラムの実施した。学生ボランティアに対する講義は中核館である金沢大学資料館の館長が担当する大学の授業カリキュラム内で実施した。

9月7日に石川県立図書館だんだん広場で「被災文化財救援フォーラム金沢2024」を開催した。能登半島地震の復興に携わる七尾市教育委員会スポーツ・文化課文化財復旧保全対策室の北林雅康氏、国立文化財機構文化財防災センターの小谷竜介氏、平成28年熊本地震での被災古墳の復旧に携わる熊本大学の杉井健氏に取組事例の紹介を行っていただいた。講演後、全体質疑が行われた。会場には86名、オンラインでは109名の参加があった。

12月8日には七尾市の七尾サンライフプラザで「被災文化財救援フォーラム七尾2024」を開催した。9月7日の金沢のフォーラムの内容に加えて、熊本県で発生した令和2年7月熊本豪雨の際に文化財救援に携わった熊本県文化財課の帆足俊文氏に講演を行なっていただいた。9月21日に発生した奥能登豪雨の文化財救援に対しての助言をいただくことができた。このフォーラムの参加者は63名(関係者を含む。)であった。金沢のフォーラムに比べて参加者は少なかったが、被災者の方が参加されており、実際の被災状況と今後のレスキューに対して具体的な提言がなされた。参加者からは、「具体的な取り組みや課題を知ることができてよかった」「三次元測定の必要性を強く感じた」「文化財を守るために、多くの人に知ってもらうことは不可欠だと思った」など感想が聞かれ、被災文化財救援に向け、理解を深める貴重な機会となった。今後も被災地での文化財救援に関するフォーラムを開催していきたい。



七尾市の状況を語る北林氏



会場の様子



熊本県の令和2年7月豪雨の状況



全体質疑の様子

金沢大学 Web サイト > ニュース

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/news/153223/>

<https://www.kanazawa-u.ac.jp/news/157304/>

2. デジタル・アーカイブ作成活動

4期にわたる三次元測量作業期間が主要なものであった。測量前及び被災した連携館での資料のデジタルアーカイブ化前に学生のフィールドワークによる清掃作業及び資料整理等を実施した。また、測量前には各市町の文化財保護担当者との打ち合わせを実施した。三次元測量の多くは、高精度の三次元レーザースキャナーを使用して実施した。複雑かつ大型で大規模な神社建築の3Dモデルの構築や外観と内部の三次元データを合体させる技術等、専門業者でなければ不可能であり、専門業者へ依頼した。活動の詳細は、後述の「事業報告書」を参照。

(1) 被災した歴史的建築物の3Dモデル作成(全4期(7月~12月)、17件測量)

第1期

- 7/22 輪島市町野 上時国家古墓・時国家墓地、7/23 輪島市町野 時国家墓地
- 7/24 宝達志水町 岡部家住宅室内、7/25 輪島市門前 總持寺祖院の亀山墓地
- 7/26 羽咋市歴史民俗資料館 船(チジブネ)・展示室

第2期

- 8/19 志賀町地頭町中世墓地 8/20 宝達志水町 岡部家住宅外側
- 8/21,22 中能登町 石動山伊須流岐比古神社の拝殿及び本殿
- 8/23 羽咋市歴史民俗資料館 船(チジブネ)



中能登町の石動山伊須流岐比古神社の3D計測

### 第3期

9/9～11 七尾市西野様邸, 9/11 中能登町石動山伊須流岐比古神社の本殿屋根の追加測量

9/12 珠洲市 祿剛崎灯台関連の海岸柱穴群

9/13 穴水町 明泉寺五輪塔墓群・石塔

9/14 能登町 中谷家墓地と主庭、志賀町地頭町中世墓群の追加測量

9/15 輪島市門前 總持寺山門

### 第4期

12/19～25 志賀町 常德寺

12/20 七尾市田鶴浜地区 古民家

12/22 七尾市市街 塗師町 民家

12/23 能登町 白丸郵便局, 12/23～25 輪島市町野地区 南惣美術館



3D 計測によりデータ化された中能登町の石動山伊須流岐比古神社(拝殿・本殿)

## (2) 歴史資料・自然史資料の記録作成

### ①歴史資料・自然史資料洗浄 ②歴史資料・自然史資料のリスト作成(7月～1月、計8回)

資料の洗浄及びリスト作成作業は、学生ボランティアによるフィールドワークとして行われた。

ボランティアに参加した学生からは、「倒れた五輪塔や石像の場所が草で隠れていたため、慎重に草刈りを進める必要があったことも大変だった。」「保存状態の良好でない古文書等の資料を清掃する際に、資料を傷つけないように清掃することが難しいと感じた。」といった感想があり、本事業に貢献するとともに、地域の復興に直接的に関与できる貴重な機会となった。

7/15 羽咋市歴史民俗資料館で被災文化財(民具)の洗浄作業とアーカイブ化 参加学生 23 名

7/21 輪島市町野 上時国家古墓の三次元測量のための事前除草作業 参加学生 10 名

8/31 輪島市門前支所文化財倉庫の整理、主に古文書史料倉庫の復旧 参加学生 9 名

9/10 穴水町明泉寺五輪塔墓群の三次元測量のための事前除草作業 参加学生 5 名

9/18 志賀町地頭地区 富澤家の資料の整理、デジタルアーカイブ資料の復旧 参加学生 9 名

9/19 中能登町石道山御廟山 前田家供養塔群の被災状況調査、三次元測量 参加学生 4 名

11/2 のと里山里海ミュージアムで七尾市 被災古文書の整理 参加学生 5 名

1/12 のと里山里海ミュージアムで七尾市 棟札などの史料の整理作業 参加学生 6 名



被災文化財(民具)の洗浄作業



古文書史料倉庫の復旧



被災状況調査、三次元測量

## (3) デジタル・アーカイブ作成

### ①デジタル・アーカイブの編集 ②デジタル・アーカイブの多言語化(11月～2月)

令和5年度 Innovate MUSEUM 事業で制作した「石川デジタルミュージアムネットワーク(IDMN)のWebサイトに、三次元測量したデータを公開する「能登半島地震被災文化財」ページを新設するとともに新たに各連携館の103点の資料を公開する準備を整え内容を充実させた。文化財の持ち主や地域の方々から承諾が得られ次第、順次このサイト内で公開する。

また、連携館が6館から9館に増えたため、IDMN チラシを刷新した。

石川デジタルミュージアムネットワーク

(IDMN: Ishikawa Digital Museum Network)

<https://idmn.w3.kanazawa-u.ac.jp/>



## 3. 事業報告書作成活動

### (1) 報告書の作成(2月)

事業の実施内容を時系列で示すとともにフォーラムの講演者資料を一冊にまとめた。なお、フォーラムの様子は資料館のYouTubeへも掲載している。(報告書裏表紙にQRコードを掲載) また、より多くの方に被災文化財保護の活動状況を周知するため、デジタルアーカイブ資料として、紙媒体の冊子を減らし、デジタル冊子を制作した。

金沢大学資料館 Web サイト > 刊行物 <https://museum.w3.kanazawa-u.ac.jp/publish/>